

# 夜間開園における植物の魅せ方について

富澤まり・小林孝次・藤井智展・堀川大輔

## はじめに

当園では、夜間開園を春、秋、冬の年3回行なっている。今回は、秋と冬の夜間開園での魅せ方の工夫について、取組を記載する。

## 秋の夜間開園

秋の夜間開園では特に夜に咲く花、香る花を中心に展示を行っている。

温室内では、大温室を中心に、熱帯の植物のエキゾチックな雰囲気を見せるために、新規に色が変わるライトを導入し、背の高い木生シダや滝をライティングすることで、雰囲気を盛り上げた。また、恒例となっている夜に咲くサガリバナやオオオニバスのライトアップも行った。

令和4年度は、夜に咲く花の開花について、複数の取材が入ったことから、かなり丁寧な報道があった。

オオオニバス（1日目の花）は、9月6日18時30分から蕾が割れ始め、10分程度で白い花びらがはっきりと現れた。この間は、肉眼でもはっきりと動きがわかった。その後、動きがゆるやかになり、21時ころに開き切った

サガリバナは、16時頃から蕾がふくらみ始め、18時30分頃には雄蕊がほどけていくことが肉眼ではっきりと観察できた。

これら開花の様子がテレビで放送されたこともあり、カメラを携えた来園者がシャッターチャンスを狙って、多数集まった。

普段見る機会が少ない植物の動きを来園者に見ていただくことは、感動を与えることにつながった。このような機会を提供できたことは、非常に良かったと思う。

屋外では、熱帯スイレンを睡蓮鉢を使って展示を行うことで、夜開性スイレンの花を間近でお客様に見ていただいた。スイレンの香りや色を觀賞していただくとともに花を近くで撮影するという楽しみも提供した。また、マツヨイグサの花を竹久夢二、ツキミソウを太宰治といった文学と絡めて紹介した。ツキミソウは、開花が始まるとかなり短い時間で動きがあり、花が

咲き始めるタイミングに居合わせた方からは歓声があがっていた。



写真（上）サガリバナ 18時40分頃、（下）21時頃

このように植物の生の動きを見せることで、来場者に高い満足度を与えることができた。

今後は夜に咲く花の面白さをもっと広く周知し、植物に興味をもってもらいたくきっかけづくりとしたい。

## 冬の夜間開園

冬の夜間開園では、季節柄夜の植物に特化した見せ方を工夫することが非常に難しかったため、①大温室のバオバブに、この株をモチーフにして描いたキャラクター（愛称「バオーン」）の絵を投影し、動きと音声を加えた「しゃべるバオバブ」や、②巨大な熱帯植物のライティングのほか、③レストランから展望塔までの通路にクリスマスの装飾と植物をテーマにした有名な絵画で壁面を装飾するなどの工夫を行った。

今回初めて導入した「キラキラマーちゃん号」は、通常、土日の日中に園内を運行している電動カートを夜間開園用に装飾したもので、森のレストランから展望塔まで約1時間半の間往復を行った。そのほか、秋に引き続き、花すくいやキッチンカーなども導入し、来園者のアトラ

クションを増やした。

#### **まとめ**

アンケート結果を見ると、秋、冬とも夜間開園の植物のライトアップが人気であったことから、今後も単なるイルミネーションやアトラクションではなく、植物園ならではの魅力を発信する努力を継続して行っていきたい。